



徳島大学病院循環器内科

八木 秀介 特任准教授



血管再生 日本初の遺伝子治療薬

血管の老化に伴う動脈硬化や、血管炎症で血管が狭まり閉塞する慢性動脈閉塞症と呼ばれる病気として、閉塞性動脈硬化症やパージャール病があります。

気が進行すると、安静時でも足の痛みがでて、痛みで寝ることができなくなったり、足先に潰瘍ができる壊死に陥ることがあります。

初期症状は、足の冷感・しびれから始まり、血管が狭まると歩行などの運動時にふくらはぎや太ももが重くなってきたり、痛みを感じるようになり、一休みすると症状が改善し、再び歩くことができる間欠性跛行という症状から始まります。さらに病

従来の治療法としては、血液をサラサラにする抗血栓薬や血管を広げる血管拡張薬治療、カテーテルという細い管を用いて血管を風船で広げたり、ステントという金属の筒を用いて血管を広げる血管内治療、またバイパス手術で血管をつなげる治療

の遺伝子治療薬が使用できるようになりました。治療方法としては、強力な血管新生作用がある肝細胞増殖因子を作り出すDNAをプラスミドという遺伝子の運び屋に組み込んで、そのプラスミドを足に筋肉注射で投与します。筋肉細胞内に入り込んだプラスミドは肝細胞増殖因子の産生・分泌を促し、その筋肉で新しい血管を再生させます。つまりこの治療法は、血管再生を促す遺伝子を足に直接投与す

法があります。しかし、これらの治療を行っても十分な効果が得られず、病状が進行してしまふと、最悪の場合、救命のために足を切断しなければなりません。

この最先端の治療を行う施設は全国でも限定されており、四国で徳島大学病院がはじめて保険治療を行い、徳島県で唯一の治療可能な施設となっております。この新しい治療を行うには、

厳しい適応条件がありますが、足の痛み、潰瘍でお困りの際には、ご担当の先生と相談して専門病院を受診することをお勧めします。